



報道関係者各位
プレスリリース

2023年5月30日
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
一般社団法人長野県観光機構

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローと 一般社団法人長野県観光機構との連携協定の締結

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローと一般社団法人長野県観光機構は、下記のとおり連携に関する協定の締結式を執り行い、今後、連携・協力事項として掲げた取組を進めてまいります。

■協定締結式概要

開催日時 : 令和5年6月2日(金) 午後3時30分～4時
式場 : 長野県庁3階 記者会見場
出席者 : 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 会長 下地 芳郎 氏
一般社団法人長野県観光機構 理事長 野原 莞爾 氏
長野県 観光部長 金井 伸樹 氏

■連携協定概要

【目的】

日本を代表する「海洋文化リゾートの沖縄」と「山岳高原リゾートの信州」という対極にある強みやそれぞれの魅力ある環境・資源を活かし、DMO同士の連携を強化することにより、両県の観光産業の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

【連携・協力事項】

- ① 将来的な定期便就航を目指した相互連携による観光誘客の促進に関する事
- ② 観光を通じた地域の魅力づくりに関する事
- ③ DMOの基盤強化に関する事
- ④ 前各号に掲げるもののほか、本協定の目的を達成するために必要な事項に関する事

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 総務部 総務経理課 課長：玉城信治 担当：真栄城 TEL：098-859-6124 FAX：098-859-6221 MAIL：pr@ocvb.or.jp	一般社団法人長野県観光機構 パブリック事業部 マネージャー：中島邦雄 担当：岩本文成 TEL：026-219-5274 FAX：026-219-5277 MAIL：yukyaku@nagano-tabi.net
---	--

1. 23年度4月入域観光客数実績および5月-7月見通しについて

	4月(実績)	5月(見込)	6月(見込)	7月(見込)	4-7月計
23年度国内(空路)	601,700	580,000	550,000	650,000	2,381,700
23年度国内(クルーズ)	1,400	12,500	8,000	6,000	27,900
23年度海外(空路)	60,300	60,000	60,000	70,000	250,300
23年度海外(クルーズ)	6,500	20,000	19,000	50,000	95,500
23年度国内・海外合計	669,900	672,500	637,000	776,000	2,755,400
対22年度対比	163.8%	169.5%	142.0%	127.7%	148.0%
対19年度国内対比	100.1%	102.4%	96.5%	98.4%	99.3%
対19年度海外対比	24.1%	22.4%	20.1%	23.1%	22.4%
対19年度国内・海外合計対比	78.7%	80.5%	73.4%	80.5%	78.3%

国内入域については全国旅行支援やコロナ5類移行等による旅行マインドの上向きにより、旅行需要は引き続き好調に推移すると見込まれる。

海外入域については、空路は運航再開している路線については予約が堅調に推移している。7月からは上海線が運航再開(1日1往復)するが、全体の運航便数はコロナ前の4割程度の水準に留まっている。

クルーズ入域に関しては、5月から6月にかけては横浜港や神戸港など国内発のクルーズ船入港が多く、7月以降は、基隆や上海など海外発のクルーズ船入港が多くなる見通し。

なお、人泊数および観光消費額の見込み等については、現在、関係機関から意見聴取を行っているところであり、今後、整理ができた段階で公表する予定です。

- ・5月 :【国内】(空路)全国旅行支援効果やGW周辺の高需要により、コロナ前とほぼ同水準の58万人(19年5月対比102.4%)と見込む。
特に東京・大阪発沖縄線(離島含む)の需要が高い。ホテル予約率も離島地区リゾートや沖縄本島内リゾートを中心に高水準で推移し、宿泊単価も那覇地区シティホテルを除き、高水準となっている。
(クルーズ)横浜港や神戸港から計7回、クルーズ船が寄港予定。入域客数は1.25万人となる見通し。

【海外】(空路)台北線、香港線、仁川線およびバンコク線(定期チャーター便)ともに予約が堅調だが、国際線全体の運航便数はコロナ前には戻っておらず、空路入域客数は6万人とコロナ前(19年5月 16.2万人)の4割弱の水準となる見通し。
(クルーズ)高雄から1回クルーズ船が寄港。入域客数は2万人と、コロナ前(19年5月 10.6万人)の2割程度の水準に留まる見通し。
- ・6月 :【国内】(空路)全国旅行支援効果により、コロナ前とほぼ同水準の55万人(19年6月対比96.5%)と見込む。
(クルーズ)横浜港や神戸港から計4回、クルーズ船が寄港予定。入域客数は0.8万人となる見通し。

【海外】(空路)空路入域客数は6万人とコロナ前(19年6月 17万人)の4割弱の水準となる見通し。
(クルーズ)基隆や上海などから計3回のクルーズ船が寄港予定。入域客数は1.9万人となる見通しで、
コロナ前(19年6月 12.9万人)の2割弱の水準に留まる見通し。
- ・7月 :【国内】(空路)全国旅行支援効果や夏休み需要により、入域観光客数は65万人(19年7月対比98.4%)と見込む。
(クルーズ)横浜港から2回、クルーズ船が寄港予定。入域客数は0.6万人となる見通し。

【海外】(空路)中国東方航空の上海線が運航再開(1日1往復)し、空路入域客数は7万人とコロナ前(19年7月 17.4万人)の4割程度の水準となる見通し。
(クルーズ)基隆や青島から計9回のクルーズ船が寄港予定。入域客数は5万人とコロナ前(19年7月 12.9万人)の4割弱の水準に留まる見通し。

1. 概要

OCVBにおいては、これまで実施してきた観光親善大使制度を令和5年度より休止し、今後新たな形での観光PRのあるべき姿を目指していくこととしており、その具体的内容を検討するために外部委員を中心とした委員会を設置する。

2. 観光親善大使制度のあり方検討委員会 委員選定について

世界から選ばれる持続可能な観光地の形成を目指して、新たな形での観光PRのあるべき姿を検討する委員会となることから、委員構成にあたっては、様々な観点から意見聴取が必要である。沖縄観光に深い見識を持っていることや新しい沖縄観光PRのあり方を議論できる方として、以下の分野より検討委員を選定する予定です。

1. 学識経験者
2. 観光分野有識者(文化・スポーツ含む)
3. 物産分野有識者
4. IT分野有識者
5. 観光親善大使経験者
6. 学生

3. 今後の予定

現在、他の都道府県の事例収集や委員の選定、設置要綱の制定など諸準備を行っており、6月中に第1回観光親善大使制度検討委員会を設置する予定です。

沖縄観光親善大使(仮称)制度検討委員会のスケジュールについては以下の通り予定しています。

(1)6月に1回目の検討委員会を開催し、その議論を踏まえて2回目以降の委員会日程を検討する。

(2)6月以降、県民や観光客からのパブリックコメントおよび賛助会員等からの意見聴取を実施する。

* 委員会は3回の開催を基本とし、状況に応じて柔軟に対応することとするが、可能な限り早めに新たな観光親善大使制度を決定する。

令和5年5月30日(火)

修学旅行の現状と今後の取り組みについて

1 現状および今後の取り組み

<現状>

新型コロナの5類感染症への移行に伴い、コロナ前の予約状況に戻りつつあるものの、今後の市場動向や受入に懸念点も出てきています。

- ・物価高騰に伴い現在の旅費予算では沖縄方面の手配がさらに厳しくなっている。
また、日数を短縮し2泊で修学旅行を実施する傾向もでてきている。
- ・2025年に大阪万博が開催されることから、修学旅行先として大阪方面を選ぶ学校が増える可能性がある。
- ・修学旅行が集中する10～12月のバスドライバー、バスガイドが不足し、予約が取りづらい。
- ・海外からの教育旅行の「県内の学校交流」について、特に台湾からの引き合いが増加しているが、受入にあたっては学校側の協力が不可欠なため、賛同をいただく学校数の確保が急務となっている。

<今後の取り組み>

沖縄県とOCVBは修学旅行の受入に取り組んでいる観光関係団体等と連携の上、市場回復および受入課題の解決に向け、以下の取り組みを行う予定です。

- ・修学旅行推進協議会や各種分科会でさらなる情報収集・課題抽出を行い、閑散期への誘導や、航空会社・旅行会社・教育機関等と連携し課題解決に向けた協議を行う。
- ・平和、探究学習やSDGsに対応した体験プログラム等の拡充を目的とした県内事業者向けの勉強会等の開催や県外向けの情報発信を行い、沖縄での修学旅行実施の意義向上を図る。
- ・モニターツアーを開催し、閑散期への時期誘導や新規校開拓を図る。
- ・少子化や物価高を踏まえ、各種関係機関と連携し、中長期的視点での誘致戦略の策定を検討する。
- ・国、県の人材育成等の他事業を活用し「バスガイドの人材の育成・確保」に努める。
- ・海外学校との交流の様子を各種メディア等を通し発信することで、県内学校の理解促進を図る。

2 海外教育旅行について

海外からの訪日観光が回復しつつある中、教育旅行についても実施及び問い合わせが増加しております。県内と海外の学生の交流による異文化理解と国際感覚会得を促進するため、沖縄県と OCVB では海外校と県内校の交流マッチングを行っており、下記の学校交流が行われます。また、6月に台湾で開催される日本政府観光局（JNTO）主催の台湾学校関係者との相談会に参加し、台湾からの教育旅行誘致を強化してまいります。

<実施済>

(1) 台湾国立竹東高級中学校 (生徒6名、教員2名)

来沖期間：令和5年5月8日～12日

学校訪問：5月10日(水) 沖縄県立具志川商業高校 訪問(授業交流)

5月11日(木) 沖縄県立芸術大学 訪問(キャンパス見学)

(2) 台湾南港国民小学校 (生徒19名、教員6名、保護者1名)

来沖期間：令和5年5月22日～25日

学校訪問：5月22日(月) うるま市立田場小学校 訪問(バスケット交流試合)

5月23日(火) 那覇市立真嘉比小学校 訪問(授業交流、バスケット交流、給食)

<実施予定>

(3) 台湾南投県延平小学校 (生徒16名、教員6名) ※予定

来沖期間：令和5年6月25日～7月1日

学校訪問：6月26日(月) 沖縄アミークスインターナショナル小学校訪問(授業交流)

3 実施件数及び予約数

OCVB 調査：令和5年5月19日時点予約数・実績

調査対象：沖縄修学旅行取扱旅行社8社回答/15社(※前月7社回答)

(1) 令和4年4月～令和5年3月の実績見込み：1,370校、258,445人

(2) 令和5年4月～令和6年3月の予約見込み：1,735校、325,275人

(3) 年度別の入込推移(見込)

令和元年度【実績】		令和2年度【実績】		令和3年度【実績】		令和4年度【実績見込】		令和5年度【見込】	
県観光政策課統計		県観光政策課統計		県観光政策課統計		OCVB 調査(R5.5.19)		OCVB 調査(R5.5.19)	
学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2,415	410,723	231	43,118	404	70,583	1,370	258,445	1,735	325,275
								(1,710)	(323,381)

括弧内()は前月調査値

お問い合わせ先

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 受入推進課 教育旅行担当：屋宜

TEL:098-859-6129 Mail:shuryo@ocvb.or.jp

令和5年5月30日(火)

セントラルフロリダ大学 原忠之博士によるセミナーを開催します ～稼げる観光地経営とインバウンド観光復活に向けて～

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎）は、沖縄県より「観光人材育成・確保促進事業」を受託し、その一環として6/5（月）に観光協会・DMO向けのセミナー「米国の成功事例から学ぶ稼げる観光地経営を目指して！」を開催いたします。

また、6/6（火）には沖縄県の「外国人観光客受入体制事業」における第一回インバウンドビジネス対応セミナーとして、観光関連事業者を対象とした「沖縄インバウンド観光復活に向けた提言」セミナーを開催いたします。

両セミナーの講師としてこの度、セントラルフロリダ大学ローゼン・ホスピタリティ経営学部テニユア付准教授の原忠之博士を迎え、先進地の事例を交えながら、地域における観光地経営と観光復活に向けたインバウンド受入について提言いただきます。

つきましては、当日の取材およびセミナーの周知についてご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

■観光協会・DMO 向けセミナー

「米国の成功事例から学ぶ稼げる観光地経営を目指して！」

【日 時】令和5年6月5日（月）14：00～16：00

【場 所】那覇セントラルホテル「プルメリア」

【受講対象】地域観光協会、DMO 等で地域振興を担う皆様、自治体職員

■観光関連事業者向けセミナー

「沖縄インバウンド観光復活に向けた提言」

【日 時】令和5年6月6日（火）13：30～15：00

【場 所】沖縄県立博物館・美術館（おきみゆー）講堂

【受講対象】インバウンドビジネスに興味のある観光関連事業者、関係者

詳細・お申込みは、別添チラシを参照ください。

【問合せ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 受入推進課

担当：川崎、渡辺

TEL：098-859-6129 E-mail：ikusei@ocvb.or.jp

観光協会・DMO向けセミナー

受講料
無料

米国の成功事例から学ぶ 稼げる観光地経営を

目指して！

6月5日（月）14時～16時

場所：那覇セントラルホテル「プルメリア」



はら ただゆき
原 忠之

講師プロフィール

セントラルフロリダ大学
ローゼン・ホスピタリティ経営学部
テニユア付准教授 兼ディックポープ観光研究所
上席研究員 博士

日本興業銀行、外務省を経て、米国コーネル大学ホテル経営学部博士号を取得。米国観光ホスピタリティ経営分野で正規教員職、テニユア（研究者終身身分保障）を持つ唯一の日本人。一橋大学大学院商学研究科特任教授、京都大学経営管理大学院客員教授、広島大学特任教授等歴任、観光庁・長官アドバイザーボード、世界的DMO評価基準検討委員、観光統計調査委員、内閣府地方創生カレッジ委員、文化庁政策アドバイザー等兼任中。

対象

- ・ 地域観光協会
- ・ DMO等で地域振興を担う方々
- ・ 自治体職員

申込方法

URLまたはQRコードのフォームよりお申し込みください。

<https://bit.ly/3LZd0mn>



令和5年度 外国人観光客受入体制強化事業
第一回インバウンドビジネス対応セミナー

沖縄インバウンド 観光復活に向けた提言

リアル+
オンライン開催

開催日時

2023.6.6 火 13:30~15:00
(受付13時開始)

会場

沖縄県立博物館・美術館(おきみゆー) 講堂
(沖縄県那覇市おもろまち3丁目1-1)

講師

原 忠之(はら ただゆき)博士



セントラルフロリダ大学
ローゼン・ホスピタリティ経営学部テニユア付准教授 兼
ディックポープ観光研究所上席研究員 博士

日本興業銀行、外務省を経て、米国コーネル大学ホテル経営学部
博士号を取得。米国観光ホスピタリティ経営分野で正規教員職、テ
ニユア(研究者終身身分保障)を持つ唯一の日本人。一橋大学大学
院商学研究科特任教授、京都大学経営管理大学院客員教授、広島
大学特任教授等歴任、観光庁・長官アドバイザリーボード、世界的
DMO評価基準検討委員、観光統計調査委員、内閣府地方創生カ
レッジ委員、文化庁政策アドバイザー等兼任中。

申込締切日

2023年6月5日(月)正午まで

申込方法

右のQRコード、もしくは以下のURLよりお申込みください
<https://forms.gle/WJzLhTLBwy2ZQruj9>



お問い合わせ

〒901-0151 沖縄県那覇市鏡原町10-8 鏡原UビルII 2階
株式会社アドスタッフ博報堂 TEL:098-859-7770

令和5年5月30日(木)

令和5年度第53回 旧海軍司令部壕慰霊祭について

(一財)沖縄観光コンベンションビューロー(会長:下地芳郎、以下OCVB)は、世界の恒久平和を発信し続けることを目的に、来る6月13日(火)に当財団施設事業所である旧海軍司令部壕にて慰霊祭を開催します。

この慰霊祭は、今日の平和と繁栄は戦没者の尊い犠牲の上に築かれたことを心に刻み、戦没者の御霊を慰めるとともに、悲惨な戦争を二度と繰り返さないよう海軍司令官であった大田實中將が壕内で最期を遂げた6月13日に毎年開催しています。戦後78年を過ぎた今もなお、毎年県内外から多くの遺族や関係者の方に参列いただいております。慰霊祭前後の時期には献花を手向ける方や多くの参拝者が絶えず訪れます。

慰霊祭当日はOCVB会長による追悼のことばのほか、公園に隣接する宇栄原小学校の皆さんによる群読・合唱を予定しており、平和の祈りに包まれます。

■詳細

名称: 第53回 旧海軍司令部壕慰霊祭

日時: 令和5年6月13日(火) 16:00~17:00(予定)

場所: 海軍戦没者慰霊塔前(海軍壕公園内)

参列者: 沖縄県、那覇市長、豊見城市長、豊見城市観光協会会長、沖縄海友会会長、遺族関係者、沖縄県観光ボランティアガイド友の会会長、宇栄原小学校、OCVB職員

【昨年度の慰霊祭の様子】



【お問い合わせ先】

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー
企画・施設事業部 旧海軍司令部壕事業所
担当: 酒井

TEL: 098-850-4055 FAX: 098-850-9342

Mail: kaigungo@ocvb.or.jp

令和5年5月30日(火)

ドイツテレビ番組「Mr. Raue Travels」魅力あふれる沖縄撮影取材 ～ドイツミシュランシェフ琉球料理を学び、旅する～

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(会長:下地芳郎、以下OCVB)は、沖縄県より沖縄観光グローバル事業を受託しており、第6次沖縄観光振興基本計画に基づき量から質への変換を図るプロモーション展開を行っています。今回、沖縄観光の高付加価値化とそのコンテンツとなる沖縄の食に焦点を当てたガストロノミーをテーマにドイツの人気料理番組の招へいを行いました。

【番組概要】

ドイツの首都ベルリンにミシュラン2つ星のレストランを構えるドイツNo.1シェフ Tim Raue が地元の人に教わりながら現地の料理を紹介し旅をする人気テレビ番組。

【撮影期間・場所】※放映予定は9月、ドイツ国内でのみ視聴可能

令和5年5月8日(月)～11日(木)

東京都、沖縄県(大宜味村・読谷村・うるま市・那覇市)

【撮影内容】

ブルーゾーンである大宜味村では「長寿食」を学び、うるま市では伝統的な「琉球料理」を実際に料理し、琉球料理にインスパイアされたシェフ自身の創作料理を披露しました。那覇市では新設された牧志公設市場を訪れ、沖縄の魚の多様性に触れたほか、子供たちとの空手体験、波の上神宮巡りなどの文化交流も行いました。

【Tim Raue氏コメント】

「今まで何度か東京を訪れ日本食への理解を深めてきたが、今回は初めての沖縄で琉球料理の日本料理とは全く異なる調理法を勉強することが出来た。1日では学びきれないものの、とても魅力を感じる事が出来た。今後の私の料理へも影響を与えたいと思う。また沖縄へ何度でも訪れて琉球料理を学びたい。」



【お問い合わせ先】

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー

海外・MICE部 海外プロモーション課 担当: 稲福 雛子

TEL: 098-859-6127 FAX: 098-859-6221

Mail: okinawatourism@ocvb.or.jp